

要点録

会議名	令和 5 年度多摩市地域福祉計画庁内委員会（第 1 回）
日 時	令和 5 年 8 月 9 日（木） 午前 10 時 00 分 ～ 正午
場 所	多摩市役所西第 1・第 2 会議室
出席者	【委員】室田委員、小山委員、千葉委員、荒井委員、中村委員、澤委員 【事務局】伊藤健康福祉部長、松崎福祉総務課長、川添福祉総務担当係長、上原健幸まちづくり推進室担当係長、海老澤主事
欠席者	鈴木委員、川辺委員
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶 2. 委嘱状伝達 3. 委員長・副委員長の互選について 4. 市民委員会の運営について 5. 多摩市地域福祉計画 今後のスケジュール 6. 多摩市地域福祉計画 令和 4 年度取組結果の報告 7. 重層的支援体制整備事業実施方針案の報告 8. その他
会議内容	
事務局	<p>5. 多摩市地域福祉計画 今後のスケジュールについて</p> <p>資料 4、5、6 に沿って説明</p>
委員長	<p>計画を策定したが、市民に浸透するかは簡単なことではない。具体的に市内の地域福祉の取組を後押しし、実効的なものにできるかが今後のポイントになる。</p> <p>6 年間の計画であるが、前期と後期で区切って、3 年目で中間見直しを行うことを提案された。</p> <p>今年度と来年度は市の取組と計画を照らし合わせ、2025 年度は中間見直しをし、後半 3 年間は時間をかけて議論をしていくことが今後のスケジュールとなる。</p> <p>計画はいったん策定されると見返すことがなくなりがちだが、実効性の高い計画にするため、この委員会が存在している。</p> <p>計画に書かれているすべてが推進されることが理想であるが、すべてが難しければ、どの施策に力を入れて推進することが必要か、といったことを年 2 回、計 4 時間の限られた時間で議論していく必要がある。</p>
委員	<p>施策 1 から 6 の中で、数値が存在しないものの評価方法はどのようにしていくか。そもそも、数値による評価が必要か。また、多摩市社会福祉協議会が数値を持っている場合、どのように連携していくか。</p>
事務局	<p>すべての施策に数値目標があるべきかどうかは、実際には難しいと考えている。</p> <p>評価指標を見直す動機としては、従来の評価方法は隔年の市政世論調査や毎年各課による自己評価によるものであったが、昨年度の策定において議論いただいたように、市民のための計画という視点から、市の自己評価によらない客観的な指標を設定できないかと考えたということである。</p> <p>数値目標でなくても、市の取組だけでなく、市民の変化につながるものであればそれを活かしていきたいと考えているが、現在事務局として煮詰まっていない。そのため、委員会の場でご意</p>

	見いただき、市役所内部の庁内委員会で提案し意見をもらいたいと考えている。
委員長	<p>福祉分野の評価は簡単でなく、例えば、ボランティアの人数を増やすこととした場合、現場では数を増やすことが目標化してしまい、手段が目的化してしまい、本来の目指す姿と異なるものになってしまう。</p> <p>そういったことを防ぐため、アウトカム指標を導入したいということであるが、アウトカム指標は評価しづらいため、簡単に数値化できないところがある。ただ、アウトプットで終わらず、アウトカムで評価するという問題意識はよい。</p>
委員	<p>KPI のない事業を行う場合で数値目標化できない場合、目指す姿に対して今足りないところをどう変えたか、納得感を引き出せるかが評価となる。</p> <p>計画の策定段階で、現状認識と目指す姿、足りないところを明確にし、それをクリアしていったかどうか。これは数値ではなく、事柄を実施したかどうかで評価する。</p>
委員	<p>本当の成果を出すのは小さなことの積み重ねである。</p> <p>評価を行う際に目標数値を設定してもあまり効果はないのではないか。必要なことは情報の共有であり、相互に情報の発信を行うことが評価で大事なことである。</p>
委員長	<p>地域福祉の領域では、事例を示すことが取組の一つの見せ方となる。たった一つの事例ではあるが、誰かの生活を変えたということで、取組が普及していこうとしているという見せ方となる。</p>
事務局	<p>目指す姿に対して足りないところを考えるという点は、計画の中で目指す地域像、目指す地域像に向けて市や市民にできることを記載している。</p> <p>評価方法について、今後どのようにしていきたいかという全体像を事務局で検討し、次回までにお示ししたい。また、現計画に足りないところ、足りないところを埋めるために必要な取組を具体化していきたい。</p> <p>また、評価をすることがゴールではなく、地域に還元し、地域での活動に活かしていただくことが必要であるという点については、地域福祉推進委員会での普及啓発をはじめ、地域で活動する方が集まる場所に事例を共有していくなど、進行管理だけでない取組が必要と考えている。</p>
事務局	<p>日常業務の中で、さまざまな事例を通じて数値をまとめて報告するという中で、どうしても数値に囚われがちになってしまう。数値の内容について、具体的にどのような取り組みを通じて、なぜそのような件数になったかを記載してもらえよう、庁内委員会でもアプローチしていきたい。</p>
委員長	<p>計画策定の段階で評価方法を決めることが本来の理想ではあるが、策定後であるため、評価部会を立て、評価の在り方について話す場を委員会とは別に設け、そこでの議論を委員会に持ち帰ることも検討いただきたい。</p>
委員	<p>現計画が足りないのではなく、理想に向けて足りないところを書いている。</p> <p>ただ、評価という観点では、何を変えるか、何が変わったのかという観点で見ていくと、見える化する意味も出てくる。</p>

事務局	<p>6. 多摩市地域福祉計画 令和4年度取組結果の報告</p> <p>資料7に沿って説明</p>
委員	<p>取組の方向を記載するにあたり、所管部署からは現状どうなっているかデータとして持っているのか。</p>
事務局	<p>令和4年度の自己評価では、各施策について取組状況はもらっている。</p>
委員	<p>（資料8について）もしデータがあるのであれば、現状の認識を記載した方が良いのではないかと。その方が、評価する側とされる側の双方にとって、振り返る際によいと思われる。</p>
事務局	<p>現在は施策の自己評価における現状認識を書いているため、目指すところに向けた現状認識という視点で評価が出来ればよいと考えている。</p>
委員長	<p>資料7の3ページ以降に、目標指標の達成状況とあるが、この目標値は何を根拠にして定めているか。</p>
事務局	<p>令和2年度見直しにおいてこの目標値を定めたが、後ほど確認したい。</p>
委員長	<p>基本的に右肩上がりとなっており、成長を前提に目標が定められると思うが、社会全体が低成長な社会で人口も減少していく社会の中で、多摩市は全国の状況とは異なると思うが、どのような目標設定が妥当かどうか、議論が必要。</p> <p>委員会で事務局が目標値を定めたのか、各部署が目標値を定めたのかにより、数値の取扱い方が変わってくるのではないかと。</p>
事務局	<p>どのような議論や確認を経て、目標値が設定されたか、確認してご報告する。</p>
委員長	<p>厳密に評価をしすぎると「評価疲れ」になり、評価のために事業を行うことになってしまう。</p> <p>どのような根拠で、どのような考え方で目標をセットするのが定まっているとよいのではないかと。</p>
委員	<p>数字だけだとよくわからない。庁内の評価ではなく、一般市民から見た数字の方がより正確ではないかと。</p>
委員	<p>施策を打ち出すことで満足するのではなく、どのように地域に降りてくるかが重要。</p> <p>地域に降りてきて、実行され、評価につながると考えている。</p>
委員長	<p>今年度の一つ重要なポイントは、どのように評価していくかということ。</p> <p>各部署の自己評価で数値化しても、市民の生活がどのように変わったかを測ることは難しい。</p> <p>市民の生活にどのように反映されたかをどのように検証していくかがポイント。</p>
委員	<p>資料8を見ると、目標指標のないものについても、記載できるものもあるのではないかと。</p>

	<p>数値を報告しやすい事業を中心に評価を行うことで、達成状況を測れるのではないかな。</p>
事務局	<p>数値を入れられる部分があるとのことについて、数値を追加することは所管課に依頼していきたい。</p> <p>ただ、広報物の配布等のアウトプットを通じ、地域がどのように変化したかというアウトカムを言葉でどのように表していくかになると考える。事業を実施し市民と接している各所管課に、現状認識を確認し、評価方法について検討していきたい。</p>
委員長	<p>次回委員会では、評価方法をどのように進めていく予定か。</p>
事務局	<p>市では、年に1回の行政評価において、予算と連動しながらPDCAを回している。</p> <p>その中で、地域福祉計画は、個別により計画に沿った細かい評価をしていくこととなるが、庁内の業務量としては増加してしまう。そのため、いくつか絞っていくことやより市民が実態のつかみやすいような指標に絞っていくことがあるのではないかと考える。市民目線に近い指標を抽出できるとよいと考えている。</p>
委員	<p>資料8の「実績・目標指標」の数値が空白のところが多く、数字が見えないと何とも言えない部分がある。</p>
委員	<p>資料8について、基本施策の欄などの重複している部分について、各課が分かりやすいようにシンプルにした方がよい。また、令和3・4年度の数値は必要ないのではないかな。</p>
事務局	<p>7. 重層的支援体制整備事業実施方針案の報告</p> <p>資料9に沿って説明</p>
委員長	<p>地域福祉計画の6つの基本施策と重層的支援体制整備事業は深く関わってくる。また、地域福祉計画の中間見直しの際に、重層的支援体制整備事業実施計画を定める予定のため、説明があった。</p> <p>端的に言うと、社会福祉の制度は法律に基づき実施されるため、縦割りになりがち。近年の社会問題には、縦割りでは対応が難しくなっているため、横のつながりを各自治体でつくる必要があるという議論の中で、重層的支援体制整備事業が推奨されている。</p>
事務局	<p>本事業を実施するという認識をしていただきたい。また、従来の制度と大きく変わるということではなく、不明点などがあれば問い合わせいただきたい。</p>
委員	<p>資料9の6ページ以降で、委託や直営とあるがどう違うのか。</p>
事務局	<p>直営は市職員が対応しており、委託は契約を結んで外部の事業者をお願いしているもの。そのため、外部の事業者がかかわっているということを分かりやすく示すことを考えていた。本方針は内部で使用するものであるため、一旦このまま進め、地域福祉計画の中間見直しの際に実施計画を策定する際には、市民の皆様もご覧になるため、分かりやすい説明にしていきたい。</p>
委員長	<p>資料9の5ページにある「包括的」とは何を指すのか、福祉の中では高齢、児童、障がい、生</p>

	<p>活困窮などを包括することに加え、保健、介護、教育等も包括するという考え方。さらに、公的な相談窓口、民間の相談窓口、インフォーマルなものもすべて包括するものであり、つながるものの制度として、多摩市では「地域包括ケアネットワーク連絡会」を設置することとしている。</p>
事務局	<p>3年ほど前にモデル事業を行ったところは、0.3%程度であった。</p> <p>交付金を受けることはできるが、財政面での支出や業務量が増加するため、事業を実施するかは議論が必要なところだが、なぜ本事業を行うかという、縦割り行政であったためである。</p> <p>福祉の事業は一般会計であり、介護保険や国民健康保険、後期高齢者医療制度は特別会計であり、それぞれの会計で事業を行わなければいけないが、ある自治体では会計を統合したところ、会計検査院から指摘を受け、公金を返還したということがあった。そういった背景を踏まえ、厚生労働省によって、重層的支援体制整備事業の導入に至った。折しも、一億人総活躍社会や社会福祉法の改正も含め、人口減社会の中で地域で支え合うという流れも大きなきっかけとなった。</p> <p>公金という意味では、別であった会計を一緒にすることとなったため、それを活かすような取り組みをしていくことが重要。</p>
委員	<p>縦割りから情報共有をする仕組みを作ることは、大変なことである。</p> <p>例えば、ある高校生のケースでは、母親の養育が難しく、通信制の高校に通っているが、中学校までは学校や子ども家庭支援センターが丁寧に対応するが、高校に入るとずっと見ている人はいなくなる。義務教育が終わってからひきこもりになる期間が一番重要な期間であるが、ひきこもりになって数年した後に気づくケースもある。</p> <p>民生委員は学校連絡会に出席するが、民生委員として受け取れる情報も限られてくるため、情報共有がすごく難しい。</p>
事務局	<p>仕組みとして会議体を設けたとしても、制度として狭間に落ちてしまうケースについて、情報共有をしたい。また、個人情報の取扱いのハードルについても、今ある制度の中で関係部署と課題を議論していきたい。</p>
事務局	<p>委員のご意見は課題として認識している。今回、重層的支援体制整備事業のポイントは、狭間のケースをいかに救っていくかである。包括的な相談支援体制、多機関で協働していくにあたり重要だと認識している。</p> <p>エリア別情報交換会では、地域包括支援センターの5圏域に分け、関係機関で相互に顔を知りつつ、情報共有をしていく場づくりを令和3年度から試行し、昨年度から実施している。</p> <p>また、個人情報の取扱いのハードルを解消するため、要綱を制定し、支援会議を昨年度から実施している。件数は少ないが、8050問題のケースを数件対応している。</p> <p>こうした内容を皆様に知っていただくということが重要だと感じている。</p>
委員	<p>民生委員としては、何かしようとしても、個人情報のハードルがある。</p>
委員長	<p>従来と異なり、縦割りではなく、情報共有の仕組みができた点は希望が持てるところ。</p>
事務局	<p>7. その他</p> <p>次回の委員会では、評価について、委員長から提案いただいた部会も含め、庁内委員会等で検討していきたい。</p>

	<p>また、目指す姿に対して足りないところを抽出すること、市として注力することの絞り込み、数値ではなく文章で評価すること、評価で終わらせるのではなく地域への情報共有の取組等が重要であるとのご意見をいただいた。今回の意見を踏まえた検討結果を、次回の委員会で示していきたいと考えている。</p> <p>評価のフォーマットもあわせて、今後の議題とさせていただきたい。</p> <p>（その他今後の流れを説明）</p> <p>以上</p>
--	---